



父ヴィクトルの彫像とヤンソン



誕生日に島で泳ぐトーヴェ



1978年トーヴェの弟で写真家のベル・ウロフが撮影した弟のラルス（右）とのツーショット



島では何もかも自分でしなければならない



夏の家で過ごすトーヴェ



クルーヴ島のスケッチ（フィンランド建築美術館蔵）



1940年代 アトリエのトーヴェ



1944年 ヘルシンキのアトリエへ移動



パリで出会った頃の若き日の父ヴィクトルと母シグネ



母シグネと幼いトーヴェ



トーヴェとピエティラ 早朝にクルーヴ島より漕ぎ出す2人



『誠実な詐欺師』1982年 SCHILDTS & SODERSTROMS



1975年トーヴェ60歳を超えたころの自画像



トーヴェとピエティラ 夏の家の前で作業をする2人



『イブニング・ニュース』紙で始まったムーミン漫画



ムーミン物語第一作『小さなトロールと大きな洪水』1945年



政治風刺誌『ガルム』で挿絵を描く 左：1943年11月/右：1944年10月



1940年 自画像「たばこを吸う娘」



母シグネが羊皮紙に描いたクルーヴ島の地図



トーヴェ14歳の頃 二人の弟と

2000 1990 1980 1970 1960 1950 1940 1930 1920 1910

2000	1999	1998	1996	1995	1994	1993	1992	1991	1990	1989	1987	1986	1984	1982	1980	1978	1977	1976	1974	1972	1971	1970	1969	1968	1966	1965	1964	1962	1960	1959	1958	1957	1956	1955	1954	1952	1950	1948	1947	1946	1945	1944	1943	1942	1941	1940	1938	1937	1936	1935	1934	1933	1932	1931	1930	1929	1928	1926	1920	1914	0歳
86歳	85歳	84歳	82歳	81歳	80歳	79歳	78歳	77歳	76歳	75歳	73歳	72歳	70歳	68歳	66歳	64歳	63歳	62歳	60歳	58歳	57歳	56歳	55歳	54歳	52歳	51歳	50歳	48歳	46歳	45歳	44歳	43歳	42歳	41歳	40歳	38歳	36歳	34歳	33歳	32歳	31歳	30歳	29歳	24歳	19歳	18歳	16歳	15歳	14歳	12歳	6歳	0歳									

◆トーヴェ・ヤンソン年譜

トーヴェ・マリカ・ヤンソン、8月9日にヘルシンキにて誕生。

父は彫刻家のヴィクトル・ヤンソン、母は挿絵画家のシグネ・ハンマルステン・ヤンソン。弟ベル・ウロフ誕生。夏、ボルウォー近くのベリングゲ群島に滞在する。以後、場所を移しながら、1999年までの毎夏をこの地で過ごした。弟ラルス誕生。

『ユーレン』誌にはじめて挿絵が掲載される。学校を中退。

スウェーデン語系の政治風刺雑誌『ガルム』で挿絵デビュー。

1953年の廃刊まで常連画家として活躍。

母の母校であるストックホルム工芸専門学校に1933年まで通つ。

給日記に「ムーミントロール」の名前が登場。

初の絵本『サラとベッレと水の精ネック』のタコ刊行。（制作1928年）

父の母校アテナム画学校（ヘルシンキ）に入学。ちに油彩科へ進み、1937年に修了。パリの美術学校で学ぶ。

ヘルシンキで初の油彩個展。

『ガルム』にムーミンの原型「スノーク」が登場。

生涯の住まいとなるヘルシンキ市内のアトリエに引っ越す。

ムーミン・トロール最初の物語『小さなトロールと大きな洪水』刊行。（1938年着手）

ムーミン物語第一作『彗星を追って』邦題『ムーミン谷の彗星』の初版刊行。

ヘルシンキ市庁舎にフレスコ画二点を制作。

『ニイ・テイド』（新時代）紙にマンガ『ムーミントロールと地球の終わり』を連載。

ムーミン物語第二作『魔法つかい（トロールカルル）の帽子』

（邦題『たのしいムーミン一家』の初版刊行。

ムーミン物語第四作『ムーミンババのほら話（邦題『ムーミンババの思い出』の初版刊行。

『魔法つかいの帽子』がイギリスで出版され評判に。

イギリスのタリ紙『イブニング・ニュース』から7年契約でムーミンの連載漫画の依頼。最初のムーミン絵本『それから、なになががあったかな？』邦題『それからどうなるの？』刊行。

ムーミン物語第五作『なんでもありの夏まつり』邦題『ムーミン谷の夏まつり』の初版刊行。

9月『イブニング・ニュース』紙でムーミンの漫画連載開始。

このころグラフィックアーティストのトゥリッキ・ピエティラと親交を深める。

連載漫画がスウェーデン、デンマーク、フィンランドの新聞に登場。

最盛期には約40カ国、120紙に掲載。

『彗星を追って』の改訂版『彗星を追うムーミントロール』、および『ムーミンババのほら話』の一部改訂版を、それぞれ刊行。『魔法つかいの帽子』を重版の際に手直しする。

ヘルシンキのアウロラ小児病院にムーミンの壁画を制作。

ムーミン物語第六作『トロールのふしぎな冬』邦題『ムーミン谷の冬』刊行。

夏至祭の日に父ヴィクトル死去。

『イブニング・ニュース』紙との契約終了。漫画連載は弟ラルスが引き継ぐ。（1975年）

ピエティラと共にギリシア、パリを旅行以降、ふたりはたびたび旅に出かけた。

ムーミン絵本第二作『クニットをなくさめるのはだあれ？』

（邦題『さびしがりのクニット』刊行。

ムーミン物語第七作『姿のみえない子とその他の物語』

（邦題『ムーミン谷の仲間たち』刊行。

ベリリングゲ群島沖の小さな岩礁クルーヴ島（ハル）に、ピエティラと小屋を建てはじめる。

クルーヴ島ではじめての夏。以降1991年まで毎夏をここで過ごした。

ムーミン物語第八作『ババと海』邦題『ムーミンババ海へいく』刊行。

国際アンデルセン賞を作家部門で受賞。

ムーミン物語第一作から第五作までを、『彗星がやってくる』『魔法つかいの帽子』『ムーミンババの回想録』なんでもありの夏まつり』として改訂版刊行。

ヤングアダルト向けの小説『彫刻家の娘』刊行。

日本でテレビアニメ『ムーミン』放映（1972年まで）。

6月母シグネ死去。

ムーミン物語第九作『十一月も終わるころ』邦題『ムーミン谷の十二月』刊行。シリーズ最終作となった。

短編小説集『聴く女』刊行。

ピエティラと来日。そのまま翌年にかけて世界一周旅行。

ヤングアダルト向け小説『夏の本』邦題『少女ソフィアの夏』刊行。

小説『太陽の街』刊行。

友人ベンツァー・エイストラ、ピエティラとともにムーミン屋敷の模型制作。（1979年完成）

ムーミン絵本第三作『なんでもありのふしぎな旅』邦題『ムーミン谷へのふしぎな旅』刊行。

原稿類をトゥルクのオーボ・アカデミー大学に寄贈。同大学より名誉博士号を授与される。

短編小説集『人形の家』刊行。

ポーランドとオーストリアの合作で、ムーミンのパベットアニメーション制作。

写真絵本『ムーミン屋敷のならず者』未邦訳刊行。撮影は弟ベル・ウロフ。

小説『フェアブレイ』刊行。

日本でアニメ『楽しいムーミン一家』が制作され、テレビ放映。

これを機にピエティラ、ラルスとともに二度目の来日。

短編小説集『クララからの手紙』刊行。

ムーミン物語第一作『小さなトロールと大きな洪水』が復刻出版。

クルーヴ島をひきあげる。

トゥルク近郊のナーンタリに「ムーミンワールド」がオープン。

ピエティラとパリへ最後の長期旅行。

生涯80年を機に、タンペレ市立美術館で大規模な作品展。

国際トーヴェ・ヤンソン会議がタンペレで開催。

国からプロフェッサの称号を受ける。

エッセイ『島暮らしの記録』刊行。挿絵はピエティラ。

短編小説集『伝言』未邦訳刊行。

トーヴェがクルーヴ島で撮影した私的な映像を編集したテレビ番組『島（ハル）』が放映される。

6月27日、ヘルシンキで死去。